

日本小児看護学会と 診療報酬

診療報酬検討委員会
日沼千尋(東京女子医科大学)

日本小児看護学会 COI開示

筆頭者氏名 日沼千尋

所 属 東京女子医科大学

演題発表に関連し、発表者には 開示すべきCOI関係にある企業・組織及び団体等はありません。

あらためて・・・

今なぜ看護職は診療報酬改定に物申すのか

適切な評価を得る⇒

- 医療経営における看護職員確保へのインセンティブになる
- 意欲の高い看護職にとっての高い看護を追及する動機付けになる
- 看護の社会的地位の確立に向けた重要な要素

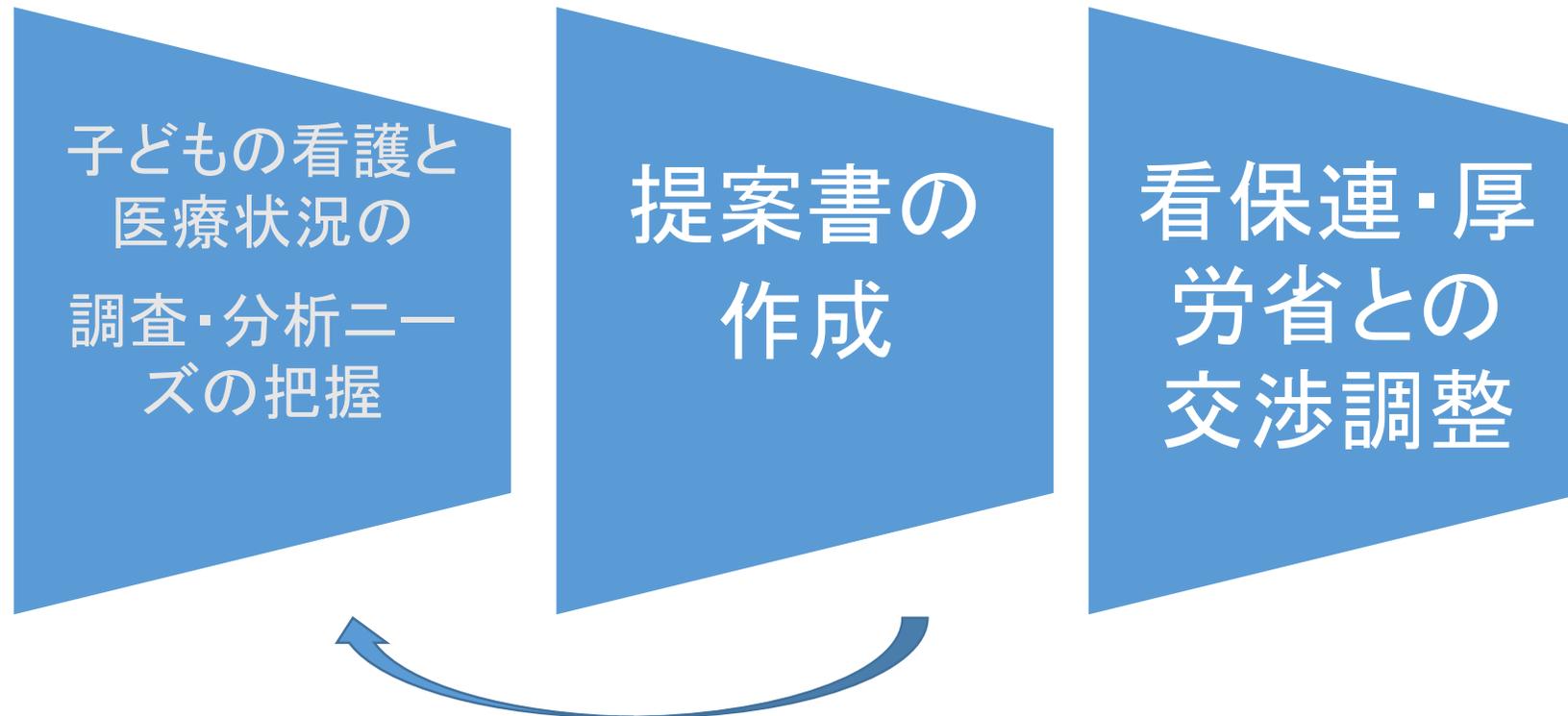
看保連(看護系学会等社会保険連合)とは

・2005(平成17)年設立

看護系39学会の代表が集まり、看護の立場から社会保険制度の在り方を提言し、また診療報酬体系及び介護報酬体系等の評価・充実・適正化の促進を目的とする

診療報酬検討委員会の活動の歴史

- 2005年看保連の設立と同時に活動開始
- 業務検討委員会 ⇒ 小児看護政策委員会 ⇒ 診療報酬委員会(2013)
- 診療報酬の改定は2年毎
- 委員会活動 2年後の改定への提案を目指して



12年間の成果

①小児外来トリアージの評価

- 6歳未満の小児への看護師によるトリアージに30点
-22(2010)年度改定 (小児看護学会による委託研究1)2)の成果)
- すべての患者への看護師によるトリアージに100点
24年度改定 (日本小児看護学会・日本救急看護学会)
- なんと30年度は300点!
医師不足・2次救急医療の充実という社会的要望が背景に

②在宅療養指導料の算定要件拡大と点数の引き上げ 24年度改定

- ミルクの注入-在宅小児経管栄養法管理指導料として1050点
注入用のポンプを使用した場合に1250点
- 在宅自己導尿指導管理料 1800点



外来・在宅移行支援にシフトチェンジ

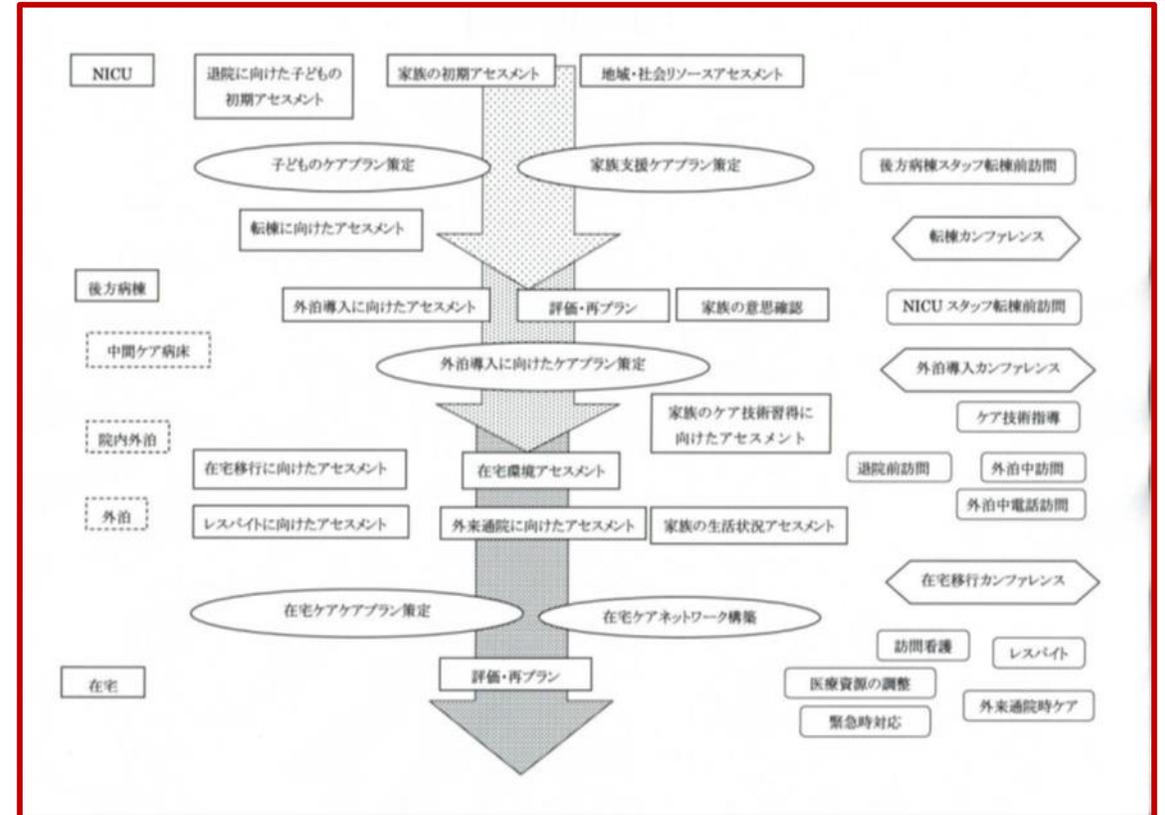
③NICUからの退院調整に関する加算 24・26年度

300点⇒600点

要件:NICUに勤務経験のある看護師が退院調整に参画すること

超低出生体重児等ハイリスク児
入院中1回600点、退院時1回600
点の2回を算定可能

算定要件に課題あり



④ 訪問看護に関する見直し(24年度)

- 超重症児(者)・準超重症児(者)への長時間訪問看護の算定は週1回
⇒3回の訪問まで可能 複数の訪問看護Stの訪問を可能
(これまでは、指定された疾患、人工呼吸器装着児のみ)
- 24時間訪問看護加算のハードルが高く算定しにくい
⇒夜間・早朝訪問看護加算(6時～8時・18時～22時)210点、
深夜訪問看護加算(22時～6時)が420点の加算が新設
24時間の対応が必要な子どもへの支援の幅が広がった
- 30年度のキーワードは「医療的ケア児」

28年度以降の流れ

子どもを含む地域包括ケアへの移行

乳幼児期から学童期まで、継続性のある小児科外来診療を評価するとともに、重症小児等の診療に積極的に取り組んでいる入院・在宅医療の評価及び連携の充実を図る。

- ① 小児かかりつけ医として、幼児期までの継続的な診療を評価



新生児期

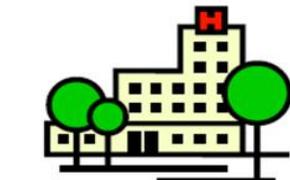


乳児期



幼児期

- ② 重症小児の受入体制・連携体制の強化



<入院医療等>

- NICU等における重症児の入院日数を延長
- 重症新生児等を受け入れている小児入院医療機関を評価
- 退院支援に関する評価を充実
- 医療型短期入所サービス利用中の処置等を評価
- 小児慢性特定疾病の患者における入院の対象年齢を延長

機能の強化
と
連携の推進



<在宅医療>

- 機能強化型在宅診療・病の実績要件として重症小児の診療を評価
- 機能強化型訪問看護ステーションの実績要件として重症小児の看護を評価
- 小児病棟に入院した月の在宅療養指導管理等を評価



<外来医療>

- 小児慢性特定疾病に関する医学管理を評価

30年度改定要望

	要望項目（タイトルのみ）	関係学会 団体	備考
1	小児在宅ケアコーディネーターのケア計画立案の評価		新設
2	小児において、退院支援加算1の施設基準に含まれる 【介護支援連携指導料の算定実績】の削除		既収載 要件見直し
3	院内虐待対応チームの算定	日本小児科学会 日本小児救急医 学会	新設 (報告書添付)
4	専門性の高い看護師による小児慢性特定疾病患 児童等への自立支援に関する評価(新設)		新設
5	小児がん患者指導管理料の算定基準の見直し		既収載 要件見直し

テーマセッションー啓発・広報活動



テーマセッション1

2025年に向けた医療政策を見据えて
～超高齢化社会の子ども達を支える診療報酬について考える～

小児看護に関連した 平成28年度改定項目の概要

共立女子大学 看護学部
西田志穂

JSCHN 診療報酬検討委員会



JSCHN 診療報酬検討委員会

2025年に向けた医療政策を見据えて
～超高齢化社会の子ども達を支える診療報酬について考える～

退院支援に関する評価の充実 ～小児領域における推移を踏まえて～

神奈川県立こども医療センター
小児看護専門看護師
萩原綾子



日本小児看護学会 第22回学術集会
24年度診療報酬改定の詳細 ー小児看護の声は反映されたか

小児専門病院における退院支援の取り組み
『退院調整加算』の小児への適応を視野に入れて H21～24まで

日本小児看護学会 小児看護政策委員会
神奈川県立こども医療センター
萩原綾子

大切なことは・・・

看護の専門性が評価されること

- ①看護は何をしているのか 専門性は何か
- ②看護の成果はどのように患者と医療、社会に波及効果があるか
- ③看護の成果はエビデンスをもって示す

本日は、30年度小児に関わる診療報酬改定の状況と現場へのインパクトを話題提供して頂きます。

皆様の積極的なご参加をお願いします。